



「つむぎカフェ（グループカウンセリング）」のようす

不登校や発達障がい者とその家族を温かく迎える「居場所」を作る

～特定非営利活動法人 ピアサポートつむぎ～

困り感を抱える子どもや若者と家族の居場所を作る

「ピアサポートつむぎ」は、不登校や発達障がい等で困り感を抱える子どもや若者とその家族が、学校・職場・地域など当事者を取り巻く環境において受容され、その人がその人らしく活躍でき、安心して暮らせるよう、居場所づくりや相談支援を行うため設立されました。河本純子^{かわもとじゅんこ}さんを理事長、遠藤明子^{えんどうあきこ}さんを副理事長として、心理士、ケアマネジャー、保育士など17名が、主要スタッフとしてかかわります。

居場所を作るきっかけは、「ピアサポートつむぎ」の前身である2つの団体の発足までさかのぼります。

河本さんは、これまで県が主催する「特別な支援を必要とする子どもたちの明日を語る会」に、何年も参加してきました。その中で、毎年保護者の方が張り詰めた思いで語られるのを聞き、「思いを共有

して、少しでも前に進めたら」と、平成20年に発達障がいを持つ子の親の会「保護者のピアサポートの会」を発足させました。活動は毎月第三木曜日。同じ立場の保護者が集まり話を聴き合います。「うちもそうだった」「それでいいんだよ」と言ってもらえるだけで、パワーをもらえました。併せて発達障がいの特性や子育てについての勉強会も行ってきたそうです。

遠藤さんが主催する、不登校の親の会「虹の会」もまた、同じ立場の保護者同士が集まる会でした。「下の子が中2のとき不登校になって。最初は何でうちだけがとっていました、そうではありませんでした。学校に相談してもなかなか伝わらず、どうすれば良いのかと悩むお母さん同士でつながりました」と遠藤さん。また、東部や西部で開催される不登校の親の会などにも参加して、「話を聞いてもらうことで救われた」とも話し、地元でもこのような会を開きたいと考え、虹の会を立ち上げました。

そうして活動をする中で、仲間から「保護者のピアサポートの会」のことを教えてもらったそうです。

2つの会は共通する悩みも多く、お互いに行き来しながら勉強会や茶話会を行っていました。一緒に活動するうちに河本さんと遠藤さんは、いつでも相談できる居場所がほしいと考えるようになりました。

居場所づくりのために法人化

居場所となる家を購入しさらに充実した活動をするため、NPO 法人ピアサポートつむぎを設立しました。設立総会は、働く人たちが揃いやすい正月の1月3日にファミレスで行い、賛同してくれる仲間がたくさん集まってくださいました。「居場所があればゆっくり過ごせるし、いつでも相談や活動ができます。補助金の申請が通るか分からないのに中古住宅を探しましたね。もう勢いで」と当時を振り返ります。

購入した家の1階部分は、床や壁がはがれDIYが必要でした。「天井や壁の一部は自分たちで塗りました。床や壁の打ち付けや、手すり等の取り付けは、木工が得意な方が快く手伝ってくださいました。子どもたちも参加しました。ここは自分が塗ったところ!と、嬉しそうに話してくれます」と2人は話します。そして、「つむぎ」は令和4年7月、ついに開所式を迎えました。

Before 掃除・塗り替えして ✨
After 綺麗に生まれ変わりました!



「つむぎ」開所後の活動

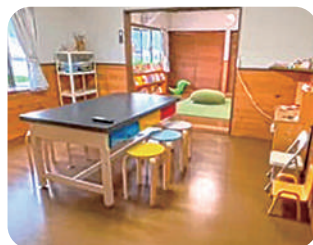
当初は「こんなイベントをします。来てくださいね」と、声をかけていくつもりでしたが、開所前から、人から人へと伝わり、「僕、来てもいい?」「カードゲームがしたい!」「バンドが組みたい!」と子どもや若者たちが自ら遊びに来てくれました。

また、保護者の方も「ここだったらゆっくりできる」「自分の居場所だ」と言って訪れます。つむぎにいる時間は、思いを語ったり、肩の力を抜いてゆっくり過ごされます。

それだけではなく、「勉強を教えるの得意です」「ゲームの相手になります」「ポスター等のデザイン書きます」「何かできることはありませんか?」等と声をかけてくださる方もたくさん訪れます。河本さん曰く「みなさん、親や子どもの気持ちが分かる人」。温かい対応をしてくれます。



研修の様子



みんなの居場所「つむぎ」

つむぎにはボランティアとして協力してくれるたくさんの人たちがいます。様々な特技をいかし、子どもだけでなく、大人も楽しませてくれます。



活動紹介 ヨッシークラブ

それでヨッシー、そのままヨッシー
キミはそのままヨッシーなんだよ♪

※希望する際は事前にメールで申込みが必要です。

科学あそび・折り紙あそび・ボードゲーム・プラレール・レゴブロック・クッキング・アートなど、色々な活動で楽しんでいます!

相談しても理解してもらえなかった経験をしているため、1歩を踏み出す事の大変さや言葉にできない迷いや不安も痛いほど理解できます。そのため、スタッフ全員が適切な対応ができるよう、定期的に研修も行っています。

必要としている人は他にも

居場所「つむぎ」を利用できる対象は、当初、児童・生徒・学校を卒業して数年の社会人、若者に絞りました。しかし、実際にはそれ以上の方のニーズも多く、他の相談機関からの紹介や家族の相談で利用される方がいます。最近、様々な支援体制が整いつつあり小さい時からの支援を受けることができますが、すでに成人されている方の中には、幼少期に十分な支援が受けられず、今も大変な思いをしながら生きている人が少なくないのだそう。「あちこち相談してみたけど、どこに相談してもうまくいかない」という方も多く、現在は年齢に関係なくどなたでも話を伺っています。

「つむぎ」への相談方法

まずは、メールで連絡してください。「つむぎ」に来ていただく日を調整します。曜日や時間等、可能な限り対応します。



「つむぎ」の建物内には、研修などもしやすいよう、モニターにPC画面を映す設備もあります。

啓発活動の拠点としても活用

河本さんと遠藤さんは、公民館、学校、職場等へ出向き、不登校やひきこもり、発達障がいについて伝える活動も行っています。「地域の皆さんに理解してもらい、分かってもらえることが大事だと思っていて」と話し、「実は知り合いも…」という声も多く聞きます。「同じような悩みを抱える人はどこにでもいる。皆が正しく理解し、優しく見守ることができるになれば」と話します。支援する人や団体と学校や職場・行政が連携して当事者を支え、地域が当事者とその家族を温かく受け入れるような社会になってくれたらと願い、活動を続けています。

支援方法の紹介



サポーター登録制度

不登校、ひきこもり、発達障がいに対する研修会を計画し、サポーター研修を受講した企業や団体に対して、サポーター登録をしています。

ふるさと納税

鳥取県のふるさと納税に、「ギフ鳥」という仕組みができました。ピアサポートつむぎへのご支援をお願いします。



ギフ鳥はこちら

ピアサポートつむぎからメッセージ



理事長
河本 純子さん

私たちにとって「つむぎ」の活動は、すべきことでもありやりたいことでもあります。親の会でたくさんの相談を受けるようになったことや、自分の子育ての中でもきちんと勉強する必要性を感じて公認心理師や特別支援教育士の資格を取りました。今までたくさんの方にお世話になってきたので、この活動を通して今度は皆さんにお返してきたら嬉しいです。



副理事長
遠藤 明子さん

つむぎは私自身が必要としていた「いつでも相談でき、安心して過ごせる場所」です。まだまだ進化の途中ですが、たくさんの仲間と協力者の力を借りて、誰もが生きやすい世の中になる様にと頑張っています。当事者や保護者の方は勿論、先生や支援者の皆さん、地域の皆さんも来て下さい。ボランティアも随時募集中です！

活動については各SNSからもご覧いただけます！

つむぎ
ホーム
ページ



YouTube



Twitter



Facebook



Instagram



問合せ先

特定非営利法人 ピアサポートつむぎ

〒682-0044
鳥取県倉吉市小田79-15

E-mail tottori.tsumugi@gmail.com
またはホームページ、各SNSからご連絡ください。